

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

保護者・生徒から、「入ってよかったと思える学校」、地域社会からは「信頼出来る学校、頼りになる学校」となることをめざす。  
 そのため、総合学科の特性を生かし、多様な学び、主体的な学びを通して学習意欲を高めるとともに、キャリア発達の支援を通じて個々の能力・適性を伸ばし、地域社会との連携を深め、時代や社会の要請に応えることができるよう「生きる力」を育む。  
 また、創立の経緯、そして「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学選抜」実施校としての実績を踏まえ、多面的な人権教育を展開し、人が繋がることの大切さ、素晴らしさに気づかせ、「豊かな人間性」を育む。

## 2 中期的目標

- (1) 確かな学力を育む・・・総合学科の特色を生かし、自ら考え自ら学ぶ「確かな学力」をはぐくむ。
- 新学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、総合学科の特色を生かした教育課程を編成し個に応じたきめ細かな教育活動を展開する。
    - ・習熟度別少人数授業の実施、多様な選択科目の開設により基礎・基本の学力の定着を図る。
    - ・必修履修、共通履修そして選択履修科目のバランス良い履修、進路実現をめざした履修が可能となるようカリキュラムを編成しガイダンスに努める。
  - 学習環境を整え、よりよい学びの姿勢を追求する。
  - 授業力向上に取り組む。
    - ・経験豊富な教員の大量退職、初任者の増加を踏まえ、教員相互の授業見学の実施や研究協議などを通し、教員の授業力の向上を図る。
    - ・授業アンケートを活用した授業力向上の取組みについて研究する。※授業アンケートを活用し授業改善について年 2 回の研究協議を定着させる。
  - ICT を活用した授業の推進、グループ学習等、授業形態の工夫改善を行う。
    - ・学習効果を高めるため、ICT 機器を積極的に活用するとともに、生徒自身の ICT 活用能力を高め、プレゼンテーション能力をより一層高める。  
 ※ 2 年後には、座学担当の 3 分の 2 の教員が ICT 機器を活用するよう取組みを進める。
- (2) 「志」や「夢」を育む・・・主体的な社会の形成者となるべく、「志」や「夢」をはぐくむとともに、自主的自律的態度を養う。
- キャリア発達を支援する体制と指導計画の充実
    - ・「社会への扉」や「課題研究」の取組みの充実を図るとともに、「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し就職・進学双方の進路実現を図る。  
 ※昨年度実現した就職一次試験での内定率 75% 超え、就職率 100% を定着させる。進学面では、2 年次後半からセミナー(補習)を定期的に開講し、休業期間中には集中的に実施する。加えて、自習スペースの環境を整えるなどし、近大から関大レベルの合格者を複数輩出する。
  - 人権意識、規範意識を高める。
    - ・体験的学習など、多様かつ多面的な人権教育を進める。その際、多数の外国にルーツのある生徒が共に学ぶ学校として、これらの生徒の支援に努めるとともに、多文化共生教育を推進する。また、昨年開始した大阪市営地下鉄通訳ボランティア活動を引き続き関係校と連携し実施し、併せて交流活動も行う。
    - ・一人ひとりを大切に生徒指導を実践、生徒理解をもとに規律・規範意識を確立し、遅刻者の減少に力を入れる。平成 26 年までの 3 年間で遅刻者数を半減させた実績を踏まえ、さらなる遅刻者減をめざした取組みについて校内議論を深め、取組み体制の充実をはかる。また、化粧装飾品の一掃をめざし取組みを進める。
  - 生徒集団づくりや生徒主体の活動を推進する。
    - ・生徒の自主的グループ活動等を行えるよう環境整備を行い、人がつながることの大切さ、触れ合うこと大切さを学ばせる。
    - ・部活動の活性化と生徒委員会活動を充実させ、生徒相互啓発による教育効果を高める。 ※2 年後には、部活動の参加率を 6 割台にのせる。
    - ・スピーチ活動やプレゼン活動を積極的に取り入れ、生徒の対人関係能力を高める。また、その情報を出身中学校にも積極的に発信する。
  - 教員自身の能力を高め、生徒・保護者の多様なニーズに応えることができるよう、自己研鑽、人材育成に努める。
    - ・平均年齢が 30 歳台であることを踏まえ、若さとエネルギーに満ちた行動力を生かせるよう、経験豊富な先輩教員による授業、担任や分掌業務についての指導、OJT を通じて、教師力の向上を図る。
- (3) 保護者や地域との連携。開かれた学校づくりと広報活動の充実。
- 家庭や地域との連携・協力体制を充実させ、生徒の自立を支援する。
    - ・保護者とは懇談会だけでなく密に連絡を取り合い、生活指導や進路指導・学習指導など多面的な指導について連携を図る。
    - ・中学校との連携を充実させ、中学校の取組みを高校でも生かせるよう連携を深め継続的な指導を展開する。
  - 総合学科の特色や本校の指導内容など、保護者や中学生への情報提供に努める。
    - ・授業公開、体験入学に取組み、中学への出前授業も行う。※2 年後、体験授業参加者の半数の受験をめざす。
    - ・定期的に中学校との情報交換を行い、本校の取組みを説明し、進学説明に向向く。その際、入学選抜制度の改編についても丁寧な説明を行う。
  - その他関係機関との連携
    - ・地域教育協議会に積極的に参加し、地域の子どもたちを協力しあいながら育てていく。
    - ・選択科目や部活動などで他の施設・機関と相互に連絡を取り合い、活動の活性化に向けた取組みを展開する。
    - ・近隣の大学との授業交流、キャリア支援交流等に関し、その可能性について意見交換を開始する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 実施分]	学校協議会からの意見
<p>○3 年生 (32 期生) 「他の学校にない特色がある」が 87%、「総合学科らしさを感じる」が 73%、「総合学科で学んでよかった」が 78%、「充実した高校生活を送ることができた」が 76%の肯定的回答があり、生徒は総合学科での学びを理解させ、充実した学びを提供できたものと評価できる。</p> <p>○2 年生 (33 期生) 「進路についての情報をよく知らせてくれる」が 81%、「将来の進路や生き方について考える機会がある」が 83%、「自分の将来をよく考えながら科目選択ができた」が 80%の肯定的回答があり、進路を見据えて総合学科の学びを進めていることがわかる。</p> <p>○1 年生 (34 期生) 「先生は協力して生徒指導にあたっている」が 80%、「頭髪指導の意味を考え、よく守れた」が 84%の肯定的な回答があり、教職員による一致した生徒指導が実を結んでいると評価できる。</p> <p>○全体的に 「人権教育についての取組みが様々な場面でなされている」の肯定的回答が 3 学年平均して約 77%であり、本校の柱である人権教育は定着している。</p> <p>○3 年保護者 「他の学校にはない独自の教育活動に取り組んでいる」の肯定的回答が 90%であり、本校の特色ある教育について十分に理解をいただいている。「PTA 活動に参加することがある」については肯定的回答が 17%と低く、保護者の学校教育への参加を促進していく必要がある。</p>	<p>第 1 回【平成 28 年 5 月 23 日実施】 ○今年度から入学者選抜が一般選抜となり入学してきた生徒は多くの選択肢から八尾北を選んだのだから、その生徒から八尾北に入学した目的を聞き出せば、八尾北のアピールポイントがもっと出せるのではないかと。 ○大学への進学指導で、大学ごとに担当を決めて、その大学が欲している部分、面接で評価される部分などを分析して指導にあたることはできないか。 ○人権の意味を考え差別事象にきちっと対応する教員を育てるためにも、地域に学ぶという意識で関わっていただきたいと思っている。</p> <p>第 2 回【平成 28 年 11 月 22 日実施】 ○生徒がアルバイトをするということについては、コミュニケーション能力が身につくなど役立つことも多いので、一定認めていくのがよいのではないかと。 ○八尾北高校の体育祭や文化祭などの取組みを企業の方に見ていただけるように案内してはどうか。 ○大学から社会への接続には次の 3 点が高校 2 年生までに育っていなければならないといっているので、八尾北の授業づくり等の参考にさせていただきたい。①コミュニケーション能力②進路意識③自主学習力</p> <p>第 3 回【平成 29 年 1 月 30 日実施】 ○クラブ活動への加入率は低いですが、八尾北の生徒にとって体育祭や文化祭などの取組みのインパクトは強く、そこで得た達成感、助け合う気持ちなどクラブ活動の代わりになっているところもあると感じる。アルバイトもしている生徒は職業意識や勤労観が育っている。生徒の活動については多面的に見ることが必要だ。 ○どの子も夢中になる授業をつくろうという教員間の意思疎通が必要だ。授業で生徒も意思疎通ができるようになるためのグランドデザインが必要だ。 ○差別のある社会をみんなで作っていきたくて思えるような生徒を育てたいと思っているので、高校でもその視点で指導いただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」を育む	(1) 本校がめざす「学力」についての議論を一層深める。 昨年の議論の成果。2 つの学力 (社会人基礎力と進路突破力) について引き続き議論を深める。	ア. 総合学科八尾北高校がめざす「学力」について議論を継続し、共通理解を進める。そのため ①「将来構想委員会」の下に設けた「学力向上」プロジェクトチームを継続して開催する。 ②教育センターや有識者等に助言を戴き、PT で府内外の取組みを鋭意リサーチする。 ③有識者をアドバイザーとして定期的に招き、PT において、また、学力向上に向けた全教職員対象の研修等を通じ組織力を高める。	①プロジェクトチーム (以下 PT) の開催回数 (昨年 6 回) ②PT の取組みテーマに関するリサーチ数 (教育活動全般を対象)。教科・科目、行事、生徒会、ボランティア等、8 本 (昨年 12 本) ③有識者等によるアドバイス回数、研修回数等。(昨年 4 回)	(1) ア ①「学力向上」PT を「学力向上」と「授業力向上」の 2 チームに拡大。各チーム 4 回開催。(○) ②「教育相談」PT を組織。4 校の取組みを聞き取り。(◎) ③学力向上のためのカリキュラムマネジメント、配慮を要する生徒の学びの支援、安心して学ぶための高校生活支援をテーマに講演会、研修会を実施 (○)
	(2) 「わかる授業、学びとる授業」をめざしたよりよい授業の追求	イ. 上記 PT を活用し ICT 機器の活用、グループ学習に加え、探求・発表活動のモデル授業を実施しノウハウを蓄積していく。そのための機器や教材の整備に努める。 有識者の支援を求め校内初任者研修にアクティブ・ラーニング研修を組み込み、モデル授業を構築する。	①収集した授業実践事例数。(国、社、理、情報等他教科併せて 5 本。) 昨年 8 本	(2) イ ①アクティブ・ラーニングを取り入れた授業、「学びの共同体」改革校の授業実践事例を収集。(○)
		ウ. 上記取組みを定期的に会議等で全体化し、公開授業等を活用し、モデル授業について検証を行う。	①モデル授業の実施回数。また、生徒対象にアンケートを実施し改善につなげる。	(2) ウ ①モデル授業を 6 回実施。(○)
2. 「志」や「夢」をはぐくむ	(1) キャリア教育の充実 ア. 進路実現に向けた意識の醸成。 イ. 進路突破力の獲得 ウ. 自己実現を図るための企業連携	ア. 入学時からの系統的な取組みによる進路実現に向けた意識を醸成。 ①「社会への扉」の系統的实施と今日的状況を踏まえたモデル教材の作成、活用。 ②昨年実施した「ソーシャルデザインワーク」の成果と課題を分析し、必要に応じて改善を行う。 ③必要な時に必要な進路情報の適切な提供	①キャリア教育の 3 年間の系統的取組みを俯瞰する「八尾北スタンダード」を作成。 ②進路情報の提供に関し 3 年次の自己診断値を 2 年次より 5% 上げ。(昨年 78%) ③ 休業中のガイダンス室、日常の自習スペースの活用回数。(昨年 11 月から毎日)	(1) ア ①「八尾北スタンダード」を作成。(○) ②進路情報提供に関する 3 年次の自己診断 73% (△) ③ガイダンス室、自習スペースは日祝、長期休業中の一部期間を除いて毎日活用。(○)
		イ. 社会人として必要とされる「社会人基礎力」の獲得と進路実現に向けた「進路突破力」の育成。 ①「社会への扉」、「課題研究」のさらなる充実と、発表力、プレゼンテーション能力の育成。可能な限り 1、2 年にも参加の機会を与える。 ②進学、資格取得をめざした「セミナー」の早期開講、休業期間中の集中的実施。 自主作成問題による校内実力テストを実施。 ③一般入試を睨み校外模試への参加の促進。 ④就職、進学面接の強化・・・「面接個別カルテ」の作成と効果的活用。	①「課題研究発表大会」で全生徒が無原稿でプレゼン発表。教科でディベート実施 ②-1 セミナー補習の定期開催をめざし、補習回数と参加人数を少しでも増やす。(昨年、夏以降、英数国週 2 回 参加人数 136 人) ②-2 英検等受験者の 50 名超えを定着させる。(昨年 55 名) ③ 校内実力テストの導入を受け、校外模試参加者の年間 150 名超え。(昨年 134 名) ④ 就職決定率、昨年同様 100% を維持 大学進学決定率 90% 以上維持。(昨年 95%)。医療系専門学校決定率 90% 以上をめざす。(昨年 80%)	(1) イ ①「課題研究発表大会」では無原稿でのプレゼンを全生徒が実施。小論文等の授業でディベートを実施。(○) ②-1 セミナー補習を英国数理で継続的に開催。参加人数 72 人 (△) ②-2 英検受験者 32 人 (△) ③校外模擬テスト参加者 147 人名 (○) ④就職決定率 100%、大学進学決定率 95% 医療系専門学校決定率 95% (○)
		ウ. 地元企業等と連携した取組み ①求人およびインターンシップの拡充をめざした事業所の開拓。また、応募前職場見学を指導の機会として有効に活用。	①-1 教員による企業訪問回数 (昨年一人 4 社)、中小企業同友会会合に参加。(昨年 1 回) ①-2 インターンシップ 参加生徒数 (昨年 40 名) ①-3 応募前職場見学を希望者 100% に。(昨年 100%)	(1) ウ ①-1 教員による企業訪問回数 (一人 4 社)、中小企業同友会会合に参加 (2 回) (○) ①-2 インターンシップ 参加生徒数 65 名 (○) ①-3 応募前職場見学を希望者 100% (○)

府立八尾北高等学校

	(2) 人権意識を高め、また、支援の充実を図る。 工、多様な人権教育を進め豊かな人権意識の高揚を図る オ、特別な支援の必要な生徒への対応	工・人権教育担当者会議を中心に人権教育の効果的な取り組みを実施。その際、 ①府の「安全安心事業」を活用する。 ②また、全府的に初任者が増えていることを踏まえ、校内、校外発信に努める。 オ・人権上配慮の必要な生徒に対し支援を行う。	工-① 府の「安全安心」事業と連携した取り組み回数。(昨年6回) 工-② 人の異動を踏まえ発信発表件数4件を目標とする。(昨年6回) オ 支援の具体的状況、当該生徒の満足度	(2) 工 ①府の「安全安心」事業と連携した取り組み回数10回(O) ②発信発表件数4件(O) (2)(O)
	(3) 規範意識の醸成と生徒支援体制の充実 カ、生徒指導の充実 キ、個に応じた指導・支援の充実	カ・職員全員での登校指導等に加え、遅刻指導、自転車マナー指導に力を入れる。 また、昨年開始した化粧装飾品一掃指導の定着を図る。	①遅刻件数年間3000件未満をめざす。(昨年3650件) ②化粧装飾品指導件数の3割減をめざす。(昨年約200件)	(3) カ ①4051件(Δ) ②130件(O)
		キ・相談しやすい環境を整備するとともに、全学年主任連絡会で常時情報交換を行い、必要に応じて相談係と連携し、都度「ケース会議」を開催し対応し、対応事例集としてまとめる。	①ケース会議の開催件数。(昨年6回) ②「生徒支援委員会」を新たに設置し、要支援生徒に対する就学支援のあり方を検討する。	(3) キ ①ケース会議4回(O) ②要支援生徒に対する支援を検討(O)
	(4) 集団への帰属意識の向上と自主活動推進 ク、集団行動、仲間づくりとしての行事、部活動活性化 ケ、生徒会を中心に委員会活動を実施	ク①体育祭、文化祭行事を活用した生徒の自主的自律的運営能力の育成。 ②生徒会や学年でキャンペーン等による部活動の活性化。新入生の体験入部にてこ入れ。	①自己診断の「学校が楽しい」の75%キ-7(昨年79%)。生徒会行事に対する参加意識の70%超えをめざす。(昨年68%) ②部活加入率の通年5割超え(昨年4割)。	(4) ク ①自己診断の「学校が楽しい」73% 生徒会行事に対する参加意識68%(Δ) ②1年生57%(O) (全体46%)
ケ・活発になりつつある生徒会を中心とした各種委員会等活動を定着させ、その活動を学校内外に発信する。		①委員会活動の開催回数(昨年20回)、開催内容の充実度	(4) ケ ①委員会活動40回開催(◎)	
3. 広開保 報か護 活れ者 動た校の の充校活 実実く とく のの 連連 携携	(1) 保護者との情報連携による成長支援 ア、懇談会等を通じた情報・対応連携	ア・年度当初早期の保護者懇談にて協力体制を構築し、長期欠席、成績不振、指導事案等必要に応じて家庭訪問や関係機関とも連携し、生徒の自己実現に向け取り組む。	ア-①進級率98%以上目標。(昨年98%) ② 停学事案の1割減をめざす。特に校内事案を1桁台に。(昨年20件)	(1) ア ①進級率98%(O) ②停学事案9件(O)
	(2) 開かれた学校づくりと広報活動充実。 イ、ホームページの充実 ウ、中学校、地域、大学等との連携	イ・学校行事や生徒たちの様子、日程変更等の情報をHP、メルマガにて保護者に提供し、保護者の理解と協力の促進に繋げる。 ウ・入試制度の改編を踏まえ、地元の教育機関等との相互交流を図り本校の特色を発信。	イ-①メルマガ等の発行回数。(昨年73回) ②ホームページ更新を月6回に。(昨年4回) ウ-①中学校が実施する進路希望調査の希望者数(昨年1.2倍)、入学者選抜志願者の増加(昨年1.1倍)	(2) イ ①メルマガ発行70回(O) ②ホームページ更新 月1回(Δ) (2) ウ ①中学校が実施する進路希望調査の希望者数1.15倍 入学者選抜志願者1.03倍(Δ)